



世界遺産への登録をめざす

Vol.29

秋号 / Autumn 2013

武家の古都・鎌倉ニュース

第29号

平成25年(2013年)12月発行

発行：鎌倉市 編集協力：内海恒雄

◆ 鎌倉世界遺産登録推進協議会 ☆平成25年度総会開催 ◆

イコモス勧告後の状況報告と本年度事業・予算を承認

平成25年8月9日(金)、鎌倉商工会議所地下ホールにおいて、当推進協議会の平成25年度総会が開催され、参加団体より96名の会員が出席しました。

松尾崇推進協議会会長による挨拶

冒頭に当会会長の松尾崇鎌倉市長から「世界遺産登録が実現すれば、従来の文化財保護法や古都保存法に加え、歴史的な遺産を守り伝える強力なツールが加わるものと期待していただけた。今回のイコモス勧告不記載は大変残念だった。今後も鎌倉の歴史遺産をしっかりと守り、後世に確実に伝えていくため、従来の事業を精査しながら引き続き取り組みを進めていきたい」と挨拶がありました。

平成24年度事業報告

役員紹介の後、議事に入り、最初に平成24年度事業について、内海恒雄広報部会長より映像を使用しながら報告がなされました。講座や講演会、コンクールなど世界遺産関連のイベントを主催・共催し、多くの方が参加されたことまた「武家の古都・鎌倉」ニュースやマップの発行、さまざまな掲示物の作成、啓発グッズ等を活用した広報活動などが報告されました。

その後、事務局からの決算報告、監査委員からの監査報告があり、全て承認されました。

イコモス勧告後の状況報告

事務局長である鎌倉市世界遺産登録推進担当の小嶋担当部長より、イコモス勧告後の状況について報告がありました。また、鎌倉市としては、イコモス勧告において提起された課題をクリアしていくことで、鎌倉が今以上に素晴らしい、世界に誇れるまちになるよう、「歴史的遺産を守る取り組み」「貴重な緑や景観を守る取り組み」「渋滞対策等市民生活を守る取

り組み」の3つの柱を中心にまちづくりに取り組んでいきたいという考え方が示されました。

平成25年度事業計画

奴田不二夫登録推進事業部会長から、平成25年度の事業計画について説明がありました。奴田部会長からは、「これまでやってきたことは、まったく無駄ではない。今までの事業部会だけでなく、新しい有識者から新しい知恵をいただきながら、新たな鎌倉を見つけていきたいと思っている。」との見解が示されました。

参加団体と会長・事務局との質疑応答

今後の推進協議会のあり方等について、多くの意見・質問が出され、「不記載勧告となったことは非常に悔しい。会長はどう考えているか。」との質問に、「協議会会員の皆様には心から感謝したい。結果を変えることはできないので、勧告があったからこそ鎌倉のまちが将来よくなっていったという起点にしていきたい。」と答えるなど、松尾会長及び事務局の回答がありました。

この他、協議会の今後について多種多様な意見が交わされた後、平成25年度の事業・予算が承認され、閉会となりました。

鎌倉の真髄を学ぶ
「武家の古都・鎌倉塾」は
春と秋に開催。



市民の意見を紡ぐ場として
好評の「ワークショップ」。



◆ 鎌倉世界遺産登録推進協議会主催・鎌倉の世界遺産登録をめざす市民の会共催 ◆

シンポジウム『文化を紡ぐ』

平成25年9月8日(日)、建長寺・応供堂に、鎌倉で活躍する様々な出演者が集まり、現在実施している催しなどをもとに、鎌倉の文化や課題について話し合いました。以下およその流れを要約します。

出演者 高井正俊(建長寺宗務総長)・朝比奈恵温(浄智寺住職・円覚寺教学部長)・島津克代子(北鎌倉からの庭主宰)・たなか牧子(カジュ・アートスペース主宰)・宮部誠二郎(フリーペーパーKAMAKURA編集長)

それぞれの活動

この度の世界遺産登録推進に当たっては、鎌倉の文化遺産が、古都保存法に基づく寺社の背景をなす緑の山稜部やバッファゾーンを含めた面として捉えられたところに特色があった。登録への再挑戦はそれを護る方法の模索でもあるという趣旨の内海恒雄さん(推進協議会広報部会長)の開会の辞に始まり、先ずは出演者のそれぞれの活動の報告があった。

島津さんは鎌倉の文化を発信する場として、浄智寺奥の谷戸で、「たからの庭」を主宰。染織家のたなかさんは和風民家で工房と貸教室を営みアーティストに場を提供し、〈Khaju通信〉という冊子を発行。宮部さんは大学在学中からカメレオンという団体を主宰、年2回、鎌倉の町を取材した情報誌〈KAMAKURA〉を発行している。建長寺と円覚寺の催しについて高井さんは、建長寺開山の蘭溪道隆の語録を読む会に始まる鎌倉禅研究会などを紹介し、円覚寺の座禅会や夏期講座などの活動は全国一であり、現在ともに鎌倉の禅文化・寺文化を創造していると発言。朝比奈さんは、さらに市民が多数参加する円覚寺の盆踊りを紹介した。

文化を〈紡ぐ〉という言葉・文化の発信

〈紡ぐ〉にはガンジーの糸車が連想され、文化の根源的な意味が感じられるというたなかさんの発言に続いて、パリのジャパンエキスポというイベントに和菓子を出展した和菓子作家とともにパリを訪れた島津さんは、中世そのままの街に住んでいるヨーロッパの人たちに、眼に見えない鎌倉の歴史・文化を理解させるのは難しいと感じたと発言。

日本ブータン友好協会会員のたなかさんは、日本人は大人に否定されながら成長するのに対し、ブータンでは20代の若者が主役で若い人の声がそのまま生かされ国が造られているという文化の違いに触れる。対して高井さんは、禅宗では建長寺、円覚寺共に開山は

中国人で、日本との区別は考えない。修行道場の生活は中国でも同じであり、昔と同じ生活をしている。変わらないことが大切、托鉢などの修行の姿が歴史を紡いでいることになる。国際交流という意識は特に持たずに外国人に接するという宮部さんに対し、たなかさんは鎌倉には外国人に対する閉鎖性があることを指摘。高井さんは建長寺では国際学会を開催、外国人のための英語による坐禅会、またスリランカの学生を引き受けるなど外国に門を開いていると言う。

寺社と市民活動

3・11の後、鎌倉では神道・仏教・キリスト教の三宗教合同の追討復興祈願祭を毎年行っている。それを契機に宗教の垣根を越えた鎌倉宗教者会議が設立された。高井さんは会員を広く募集して、市民と共に精神的な拠り所にもしたいという。覚園寺での島津さんがたちが開催しているワインの会は5回目を迎え、建長寺では2005年から親と子の朗読会が450回も続いており、鎌倉てらこやという子どもと大学生との“本気で建長寺合宿”も今年で11回となった。浄智寺では10月に、カメレオン主宰の食と音楽の会ミチルが行われるなど、寺院を会場とする催しが盛んである。朝比奈さんは寺は祈りの場であるからその利用については、イベントの主宰者との信頼関係が重要と述べた。

寺院には市民の広場の役割があり、寺社が多いのは鎌倉の強みであるとするたなかさんは、催しに参詣の要素があると市の後援が取りづらいという問題点を提示。寺院の立場から高井さんは政教分離はここ50～60年のことでいささかも気にしないと応じた。

鎌倉世界遺産について

世界遺産のために鎌倉があるのではなく、住んでいる人達が文化を大切に護りよい町にする、それが大事という高井さんや、鎌倉への勧告は目に見えるものがないことが、先ず自分たちが暮らしやすい町にすることが必要であるという朝比奈さんの意見があり、司会の福澤健次さんは、山際に歴史的地区が残る、それが綿々と伝えられている。そこに注目するべきで、さらに議論を深めていきたい、本日はその第一歩であったと述べた。総合司会の藤井経三郎さんは、歴史的風土を伝えるという経糸とそれを地域に広めるという緯糸を紡いでいきたい。本日は大変有意義だったと述べた。

◆ 鎌倉三日会・大谷雅実副市長講演 ◆

「歴史遺産とともに生きるまちづくり」

世界遺産登録に再挑戦する鎌倉市の大谷副市長は8月末、推進協議会参加団体の鎌倉三日会で、イコモス勧告後の鎌倉の進むべき道について語りました。登録を担ってきた4県市（神奈川県・横浜市・鎌倉市・逗子市）の世界遺産登録推進委員会委員長でもあり、鎌倉市として市民向けに具体的な提示をした再挑戦の青写真です。



再挑戦に対する市民の反応

鎌倉市の世界遺産登録推進担当にメール、電話、書簡が寄せられました。うち約5割は再挑戦で「がんばろう」という内容で、約3割が「いろいろな条件をクリアしてやれ」または「やめなさい」といった登録を疑問視する意見、残りの約2割がその他の意見（市政全体への意見など）でした。

世界遺産登録についての市民アンケートでも約7割がポジティブ、約2割がネガティブな反応、残りが「世界遺産登録の内容が分からない」などの回答でした。

まちづくりをめざして

推薦書が正式に世界遺産委員会に提出されたあとの昨年2月、世界遺産登録されても鎌倉の町がよくならないと意味がないので、きちんとまちづくりをやろうということになりました。庁内に委員会を作り7分野で協議を始めました。まず資産の保存管理で、緑地も含めて相当な範囲で内容も多様だし、お金もかかります。いろいろな意見を聞いたうえで取り組んでいこうというものです。

再挑戦の可能性

再挑戦といってもまだ可能性があるのかどうかというところから始めて、もう一回考え直そうというものです。新しい世界遺産登録のためのコンセプトを作って、それをマルチの国際会議でOKしてもらえるかどうかといった可能性から検討しなくてはいいけません。現在の議論には「いつ」ということが抜けています。ただコンセプトの見直しまではやっていこうというのが、大前提になっています。

松尾市長の基本的な考えは、歴史遺産、緑・景観、市民生活を守ることにより、事業を展開していくというものです。具体的には、「世界遺産のあるまちづくり」を「武家の古都・鎌倉」の確実な保全と「歴史遺産と共生するまちづくり」の二本柱に変えて、これを鎌倉の魅力や価値の共有につないでいこうというものです。それから伝えたい、住んでみたい、訪れたいまちに向けて世界遺産に再挑戦するために新たにコンセプトを作り直していこうということです。

再挑戦の課題

「歴史遺産と共生するまちづくり」を進めていくうえで大きく寄与することとして、センチュリー財団から活動の拠点として土地・建物、それに8月23日には15億円の寄付をいただいたことです。これを整備をしていくということで、博物館機能と学習交流機能を備えた最終的な仕上がりに向けて取り組んでいきます。さらに根本的に乱開発がされていないような仕掛けを作っていかなければいけないと思っています。

市民生活にかかわることでは、交通渋滞対策が大きな問題になっています。ロードプライシングが鎌倉では知られています。流入交通量を考えると、自家用車で鎌倉に来る人は大勢います。これを押さえてもらうこと、たとえば公共交通機関で来てもらうという方向で、いろいろ対策を考えています。

観光と市民生活の両立は、非常に難しいテーマです。鎌倉市観光基本計画というのがあります。基本は、市民にとっては住みやすいまち、観光客にとっては、「来てよかった」「住んでみたい」と思ってもらえるようなまちになりましょうという理念です。計画の目標は①鎌倉らしさにこだわる環境、②伝統と快適性が調和した観光空間、③地域が一体となつての観光振興の推進の三本柱からなっています。

伝統と快適性の両立

伝統と快適性というのは、市民に配慮した表現になっています。歴史遺産とまちなみと緑をちゃんと保全しながら、観光客の利便性も考えていこうということです。それを市民に理解していただき、地域全体で観光のことを考えていただきたいということが書いてあります。ただ観光振興というと、直観的には観光客数の増加と受け取られています。観光振興と市民生活を両立していくことは大きな課題です。

◆ 元イコモス執行委員・岡田保良さんインタビュー ◆

イコモスの「不記載」勧告と鎌倉の再挑戦

岡田さんはイコモス執行委員として6年間にわたり世界文化遺産登録にかかわり、鎌倉の推薦書作成委員の1人でもあります。

イコモスでの6年

2005年にイコモス執行委員に選出され、2011年まで6年間、世界遺産登録審査に関わってきました。毎年定期的に12月はじめ(任期中の前半、2008年登録の審査までは1月中旬)に審査会という意味でパネルと呼んでいるのですが、あしかけ7回その審査会に出席しました。外国の方々にコメントを求めるデスクレビュー、イコモス専門家による現地調査とレポート、さらにドシエという推薦書そのものも全部含めて審査します。

12月のパネルの時点では、結論(Conclusions)のところが空欄のままでユネスコに提出される勧告案文(ドラフト)が出席者全員に配られます。審査会の当日は案文を担当した人が、1つの候補地について1時間から1時間半ぐらいの審査時間をとりますが、そのうちの最初の15分ぐらいかけて自身の案文についてプレゼンします。画像は提案国で用意したものをピックアップして表示します。2011年12月に後任として九州大教授の河野俊行さんがイコモス執行委員に選出されました。

推薦書作成委員会委員として

2007年に「武家の古都・鎌倉」世界遺産一覧表記載推薦書原案作成委員会ができたとき、東大の西村幸夫先生のすすめで私も委員会に参加。2009年末に発足したプロジェクトチームにも、西村先生、高橋慎一郎先生とともに加わり推薦書作成にかかわることになりました。国際専門家会議も2009年から毎年開かれ、私も参加していました。東京で開催された第4回の国際会議は、パリでのイコモス執行委員会と重なったため私は欠席したのですが、その会議初日にあの大震災がありました。私はその報をパリの空港ではじめて見聞きし、各国の執行委員からいきなりお見舞いを告げられて戸惑ったことを覚えています。

「武家の古都・鎌倉」のコンセプト

いま言っても仕方ないのですが、最初のコンセプトである「鎌倉の社寺」の方がよかったという声が聞かれます。我々はそのことを十分承知の上で、奈良や京都との区別が必要だということで、「サムライ」を考えたのです。

「12世紀後半に頼義によって改修された。彼は初めての将軍であり…」とイコモス勧告の原文には説明されていますが、「はじめての将軍」とは頼朝ですね。何故そうだったのか。この辺の細かい議論は僕は知りません。

鎌倉の再挑戦の課題

再出発するといっても長い時間がかかるのではとの不安があるようです。作業的には言葉の上では一からの出直しかも知れませんが、実際にしなければいけない調査だとか、文書などはこれまでのものをかなり使えます。再挑戦して最終的に記載される可能性は大いにあると思います。鎌倉の価値や良さを理解してもらうには、首都圏にあって人口も多いのに、それでいながら豊かな歴史遺産を保全しているというあたりをまず認識してもらうことですね。

遺跡と現代社会

イコモス勧告では中世都市が現代都市で覆い尽くされているとされていますが、遺跡というものに対するイメージが違うのです。日本の場合、遺跡は発掘した状態が残されていればわかりやすいかもしれませんが、それはすぐ更地になってしまいます。だからそこが違う形で市街化されるのは必然です。遺跡のあり方を考えると、まず(市街化の)“被災地”として理解してもらってから、鎌倉をみてもらう必要もあるかも知れません。

跡形もないようなものが日本の遺跡だといっても、その上に現代建築が立ち並んでしまうと、保護している状態からみるとやはり努力が足りないのかなと思いますし、都市鎌倉をイメージするにも不十分だと思います。古都とか政権所在地という主旨でその価値を主張しても、物証が出てこない、それならもう一度社寺みたいなのところの OUV(顕著な普遍的価値)を認めるような説明をしないといけないのではないかと。そんなふうに思います。

イコモス勧告からの再出発

4 区市(神奈川県・横浜市・逗子市・鎌倉市)の方でも考えているようですが、これまでの推薦書作成委員会を中心としたものでいいのかどうか、かなり疑問はあります。コンセプトをもし変えなくてはいけないというような大所高所の見方があるとすれば、すべての委員を入れ替えるという意見もあるでしょうし、新しい知恵を入れるということもあるでしょう。ただし国の責任でユネスコに出すので、文化庁がこれでいいといった形にならないといけませんね。

◆ 2013 年度中世都市研究会 ☆五味文彦さん講演 ◆

「鎌倉研究の未来」問題提起

平成25年9月7日と8日、鎌倉女子大学二階堂学舎で行われた中世都市研究会冒頭で、鎌倉世界遺産の推薦書作成委員会副委員長である五味文彦放送大学教授・東大名誉教授が、鎌倉研究の未来について問題を提起されました。その講演要旨を記します。

鎌倉と世界遺産登録

5月に鎌倉の世界遺産登録ならずと決定した。登録に向けて、いくつか心配なことはあった。この会をきっかけにして、新たな鎌倉の価値を新たな側面から探り、学問的に、鎌倉の研究をどのように進めていったらよいか、これまでの研究の反省とそれを見つめ直して次のステップに進んでほしいという気持ちだ。これからは新しい研究者が新しい視点からという思いもこめて、今回は「鎌倉研究の未来」というタイトルを付けた。

私が世界遺産登録に関わるようになったきっかけは、私の師匠で、中世都市研究会の代表のひとりであった石井進先生が、鎌倉の世界遺産登録に関わろうと入られたことに始まる。ところが石井先生がまもなく亡くなられて、遺言と言われたかどうか、鎌倉市当局から依頼があり、関わるようになった。世界遺産を手掛かりにして、鎌倉の研究を進めていく必要があると思い、科学研究費を申請して鎌倉文化を地域に根ざした文化として捉える研究をした。その成果は、「山の文化」「坂の文化」「丘(岡)の文化」「谷戸・谷の文化」「平場の文化」「海の文化」「外部との交流」として2004年の研究会で発表した。その成果から鎌倉のコンセプトは「武家の古都・鎌倉」となり、武家文化・武家政権の形成・発展・影響をひとつの柱にし、鎌倉の独特な地形をもう一方の柱にすることになった。

推薦書作成の苦勞

しかしながら、世界遺産の基準はヨーロッパ文化であることから、欧米の都市に対する考え方に、日本の都市はあてはまらないことが問題だった。政権都市であれば幕府跡(御所)が必要だが、遺構を発掘調査できていない。都市に居住する町屋の跡もない。このために、推薦書には都市性というものははっきりと書くことができなかった。この原因は行政と研究者の怠慢がある。また、市民にも、もっと鎌倉の文化財を遺し、また住みよい街にするための熱意が必要だと思う。

世界遺産登録に関わりなく、すべきこと

ひとつは行政の取り組みを強化してほしい。世界遺産はやはり行政は学術調査をしっかりとすることだ。世界遺産に登録するために、地下の遺構を展示保存することを提案すると「世界遺産になったら考えましょう」と言う。世界遺産は遺構の現物を保存し見せなくてはならない。当初から問題提起してきたが動いていない。また住居遺構は、鎌倉のどこを掘っても出てくるが、それらをすべて記録保存の名で破壊せず、遺構として保存展示する必要がある。これらの問題を、すべて「世界遺産になったら」として対応してこなかったことに猛省を促したい。

また鎌倉の場合、市民の側から言うと、世界遺産になれば観光客が増加し交通問題が起こって困る。世界遺産登録のために行政に要望して、あらかじめ交通問題の解決を図っていくことだ。

鎌倉研究の未来へ問題提起

世界遺産にならなかったことによって、もう一度、鎌倉の遺構・遺物をしっかりと見つめ直すきっかけになるのではないかと考えている。

日本各地同様、鎌倉も独自に発展したわけではない。ひとつはその背景に東日本で成長してきた文化の過程がある。次に平泉の影響を受けている。そして、源頼朝以来、京都の世界との関係は一貫して続いている。さらに大陸の世界、建長寺に代表される禅宗、大陸文化の流入がある。これらに基づき、13世紀初頭に鎌倉の世界が確立したというべきか。

文献では、『吾妻鏡』という稀有な記録が遺されている。しかしながら、鎌倉幕府後期には吾妻鏡の記録がない。それを埋めるためには、東国全体をもう一度見直す必要がある。足利学校や、信州の鎌倉と呼ばれる塩田平、まさに鎌倉後期の文化が根づいている。私は、後白河院を今様から研究し、後鳥羽院を和歌から研究し、去年は鴨長明の方丈記を研究している。文学もまた、歴史研究の素材になる。

鎌倉の考古学研究では、遺跡や遺物の年代がはっきりしない。吾妻鏡があってもうまく合致しない。「少なくとも10年くらいの推定はできるだろう」と言う、「都市なので複合的すぎて結局判らない」と言う。曖昧なままにせず、重要な遺構は徹底的に探ればそこから何かが見えてくる。明晰な報告が必要である。



平成24年度 冬季講座 第 | 回要旨

『武家の古都・鎌倉』 これまでの歩みとその価値

講師：玉林 美男さん(鎌倉市学芸員)

とき：平成25年2月16日(日) ところ：鎌倉商工会議所

◎世界遺産登録について

世界遺産とは互いの文化を知ることにより平和を築くためのひとつのツールであり、その条約の目的は人類全体のために損傷や破壊から保護し、保存することである。保護の対象は記念工作物、建造物群遺跡、自然の地域等で普遍的価値を有するもの、つまり、不動産である。条約批准国は自国内に存在する遺産保護の義務があり、それが国際社会全体の義務であることを認識して活動しなければならない。

◎鎌倉の価値について

鎌倉は、武家がこの地に政権を樹立した12世紀末から14世紀前半までの約150年の間に形成され、古代社会の貴族支配から中世・近世へと続く武家社会への移行と言う日本の中での大変革をもたらし、それが後世の日本文化に大きな影響を及ぼし、世界的にも特異な武家文化が生み出された場所である。

三方を山で囲まれ一方が海に開く要害の地を選び、当時の土木技術を駆使して造られた政権所在地で、山稜部及び谷戸に配された神社や寺院、武家館、交通路、港などを防御、行政、物流上の拠点として機能的に配置し、固有の社寺景観や日本における初期禅宗寺院の伽藍の典型を伴いながら、要害的地形と一体になった政権所在地の有様を今に伝えている。武家の古都・鎌倉は世界で初めて武家政権が存在した証左であり、その支配体制及び文化的側面、すなわち武家文化がここに創出されたことを示している。

◎緩衝地帯について

国際専門家会議において、鎌倉の法的な制度は非常によく整っているという意見をいただいている。鎌倉の駅前、二の鳥居などに立った時、周りの山より高い建物はない。このことはとても評価されている。

これは鎌倉を乱開発から守るために、市民と役所が一体となって努力してきた結果である。しかし、制度として評価はされているが、街並の不揃い、統一デザインの欠如などによる世界遺産登録への疑問が呈されている。それは市民・行政ともに、世界遺産に対する理



和賀江嶋

解をさらに深めなければならないということであり、現在の一番の課題である。世界遺産登録はまちづくりであり、その啓発のための施設が必要である。市民が自分たちの街を歴史的に理解できる場所が必要であるが、鎌倉にはそれがない。現在こういった施設が検討されており、ひとつの前進と言える。

◎主な文化財の起源と保護・整備について

もう一つの問題は、遺跡の文化財的整備が未熟なことである。ようやく永福寺跡の基壇の復元が成り、次に池の復元が予定されているが、これには時間が必要となる。遺跡として資産に登録されているものが多いが、それらの整備は今後の課題である。鎌倉が武家政権の政権所在地となった理由は源氏の拠点であったことに依るが、そこでは武家の棟梁としての地位を保証するものが必要となるため、それを神に求めた。それは武家政権の精神的な中心であり、それが八幡宮である。将軍御所は遷るが政権を維持するための宗教施設は固定したものとなり、人々からの尊敬を集めた。

周りの山稜部は、一部を掘り下げ、防御に適した交通路の確保と支配が行われ、朝夷奈切通や名越切通などが造成された。切通は交通路というだけでなく、宗教的空間でもあるということが、最近注目されている。名越切通にある、まんだら堂やぐら群はその一例である。

建長寺は我が国最初の禅宗の専門道場であり、中国人により中国式の建築が行われ、谷戸を開発して敷地を造成し、方丈奥に庭園を造成した。また、瑞泉寺では鎌倉独自の岩盤を背景にした庭園が造られた。

海岸部では現存する最古の築港遺跡である和賀江嶋が造成された。これを復元していくには、時間がかかるが、鎌倉にとっては海上交通を示す、非常に重要な遺産なので、大きな変化が無いように、外側に流れ出した石を戻しながら、保全をしていくのが当面の措置だと思っている。

めざせ世界遺産登録 あなたも参加団体で活動しませんか？

鎌倉は日本人の魂の故郷

NPO法人 横浜金澤シティガイド協会

平成10年発足、平成20年にNPO法人となりました。金沢区とその周辺の自然風土や文化などについて、金沢区内外の方々へのガイドや講演を通して、まちづくり等を進めているボランティア団体です。

金沢区は地理的には横浜市の中でも鎌倉に最も近く、中世においては鎌倉の一部でした。鎌倉文化を現代に伝えている地域であることから、当協会では、世界遺産の登録推進のためのプロジェクトを立ち上げ、称名寺、朝夷奈切通のパンフレットの作成や無料ガイド等を実施してきました。

担当の橋本藤子さんは「鎌倉は日本人の人格形成の根幹を創りだした地で、いわば魂の故郷でもあるために人々を惹きつける魅力があります。当時のものがなくても、再建をしながら現在に伝えているのは、文化財を大切に護ってきた証です。世界遺産への表明は、これからも守っていくという決意表明としてぜひ実現させたいと考えています」と語ってくれました。



法華堂（頼朝の墓）の前で

世界の鎌倉へ、サムライ見参！

チーム・サムライ

「鎌倉の世界遺産登録を盛り上げるために、『祭り』を創ろう！」新しい祭りの創出を目標にして、寺社や観光、防犯や教育など多彩な活動に参加する市民たちが集まり、チームサムライがスタートしたのは、平成24年のことです。5回の会議に延べ150人の市民が集まり、源頼朝が鎌倉入りした秋に、鎌倉市民の参加する祭りを立ち上げようと企画を進めています。



鎌倉ナンバー実現に向けての会合

さらに、世界遺産登録を盛り上げるために『鎌倉ナンバー』を実現しようと市に提案。手始めに、ミニバイク(50cc～125cc)のナンバープレートに独自のデザインが採用されることになりました。

「かつての鎌倉カーニバルも、鎌倉文士が中心になって実現した市民のための祭りです。今度は市民の手で、新しい祭りを創りたい。推進協議会に入って、皆さんと一緒に、未来の世界遺産都市・鎌倉実現のために尽力したいと思います」と、代表世話人の大津定博さんが話しています。市内を拠点にするIT企業も参加する、血気盛んなサムライ集団が、あなたの参加を待っています。

問合せは大津さん ☎090-9814-0696まで。

古都鎌倉の世界遺産登録って

なに？

第28回（仮称）鎌倉歴史文化交流センターの整備

鎌倉市は、扇ガ谷一丁目の土地・建物に「（仮称）世界遺産ガイドンス施設」の整備を計画していましたが、日本政府が今回の世界遺産の推薦を取り下げたため、整備方針を見直すこととなりました。同じ土地・建物を活用し「（仮称）鎌倉歴史文化交流センター」として、整備を進める予定です。

「（仮称）鎌倉歴史文化交流センター」は、市民の皆様が鎌倉の歴史的遺産等の価値を共有し、将来的に世界遺産への登録に資する施設にしたいと考えています。

具体的には、土地の一部と既存の建物を利用して、子供や高齢者の方々にも利用しやすい施設に整備し、市内で出土した埋蔵文化財の展示機能、学習・交流機能を備えるとともに、会議室、交流スペース等の配置を予定しています。

今年度に「（仮称）鎌倉歴史文化交流センター」の基本計画を策定し、平成二七年度中の開設をめざして整備事業を進めていきます。

将来的には、扇ガ谷一丁目用地全体で「（仮称）鎌倉博物館」を整備し、鎌倉の歴史的・文化的遺産の価値を世界に発信していきたいと考えています。

Watch! the 世界遺産

「鎌倉のまちづくりと世界遺産を語ろう!」ワールド・カフェ開催

鎌倉市では、市民の皆様へ「鎌倉のまちづくりと世界遺産登録」を身近に感じてもらい、意見やアイデアを出し合ってより良い鎌倉の未来を築いていきたいと、ワールドカフェを実施することになりました。

平成25年9月1日(日)、腰越支所と大船消防署で開催。計33名の方が参加し、グループに分かれて

3つのテーマを話し合ったあと、お互いに発表して意見を共有しました。

グループのメンバーを次々に交換していくので、「いろいろな方と話せて見識が広がった」と好評でした。

テーマ

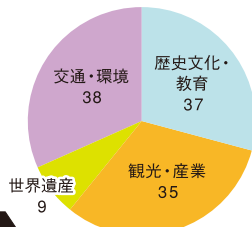
- ① 鎌倉のまちの魅力・自慢は?
- ② もっと価値ある町にするためにできること
- ③ 世界遺産が実現したとき、あなたが市長ならどう活用するか?

4～5人のグループに分かれて、鎌倉の未来を熱く語りました!

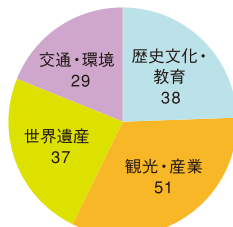
●腰越会場 参加者14名



書き込み意見総数119



書き込み意見総数155



●大船会場 参加者19名



腰越会場で集約された意見

歴史文化・教育／武家文化をアピールするには鎌倉、逗子、横浜(金沢)が一体となって歴史を検証し、広域の協力体制をとれるようにすべき。

観光・産業／特産品を増やすなど、新しいビジネスに期待する。また、観光税を徴収すべき。

世界遺産／世界遺産の内容について、市民に対しての周知徹底がされていないので、その理解が必要。

交通・環境／災害に強い安心安全なまちづくりを望む。また、自販機をなくすなど「不便なまち」で良い。

大船会場で集約された意見

歴史文化・教育／小中学生など若い人が鎌倉の歴史文化を学べる施設、歴史館の新設が必要。

観光・産業／観光については市民全体でのおもてなしの心を発揮するのが重要だが、受け入れ施設が不足している。

世界遺産／市民の意見(賛否)などを聞く必要があるとの指摘が多い。また、世界遺産登録とは関係なく、まちづくりは進めるべき。

交通・環境／鎌倉は自然(山・海・緑)が豊なので、それを守るべき。

EDITOR'S NOTE

内海恒雄

推進協議会の総会で承認された今年度の活動目標・活動方針は「歴史的遺産を守る、緑・景観を守る、渋滞対策等市民の暮らしを守る」という鎌倉市の取り組みを受け、従来の事業を精査しながら引き続き登録をめざして、市民が世界に誇れるまちとして鎌倉の魅力や価値を再認識できるよう図っていくというものです。

鎌倉が世界遺産をめざすことの意義や目的をもっと市民に浸透させ、将来世代への広報・啓発活動をさらに進めていきます。また市民の登録に関する不安や疑問の解消、二部会の連携により将来を見据えた事業の実施を図る、若い世代の活動拠点を検討する、参加団体や3県市等との連携を積極的に進めていく等、具体策が示されています。

今後は、市内外の団体が参加する国民的広がりをもった組織体制づくりに着手し、行政が打ち出す登録に向けた具体的な活動方針と両輪になって、登録に結びつく支援活動を行っていききたいと思っています。

編集後記

【編集協力】大竹正芳 香山 隆 菊池威雄 草場圭三 小池潮里 佐藤江里子 高木規矩郎 都筑健一 長田裕之 能登原秀実 萩野なおみ 福澤健次 牧れい花 森まなみ 【デザイン】澤田ながえ

★鎌倉世界遺産登録インフォメーション&放送スケジュール★

インターネット

● 鎌倉世界遺産登録推進協議会HP <http://kamakura-wh.org/>

FMラジオ

● 鎌倉FM(82.8MHz)…毎週金曜 19:10～19:30 「鎌倉世界遺産への道」

ケーブルテレビ

● JCN 鎌倉…7Days デイリー 月曜～金曜 17:50～(当日再放送あり)

鎌倉市世界遺産登録推進担当

〒248-8686 鎌倉市御成町18-10

Tel.0467-61-3849 Fax.0467-23-1085 E-mail:sekaiisan@city.kamakura.kanagawa.jp